

1 自己評価について

(1) 重点目標の達成に向けた具体的な取り組み状況や達成状況

重点目標

「至誠」に則り行動できる人材・将来を見据えて学習に取り組む人材の育成

◇学校生活における様々な教育機会での「至誠」を意識させ、取り組ませることで、基本精神に則り行動できる人材の育成を目指す。

◇学習成果を活用する場面を社会と捉え、生徒の意識を広く実社会に向けさせ、将来を見据えて学習に取り組む人材の育成を目指す。

努力点

①「文武両道」および「人材育成」の実践

②進路目標に応じた指導の徹底

③主体的な学習・生活態度の確立に向けた取り組み

④諸課題への積極的な対応（安全・安心な学校づくり、いじめ防止対策、新学習指導要領への対応、ICTの有効活用等）

- 県よりSTEAM教育のモデル校に指定され3年目、総括の年度となった。「総合的な探究の時間」を軸に計画立案したSTEAM教育推進事業は、予定通り実践できた。1学年では「自己探究」「探究基礎」の2大柱とし、特に「探究基礎」は2年次の「テーマ研究」の準備として探究学習を体験できるように計画し、効果的に実践できた。今年度の2年生のテーマは、検証実験、運動系の実験をしたもの、中学校の教員や他高校生へのアンケートを分析しまとめたもの、地域の課題についてなど多種多様であった。今年度は発表を工夫し、発表はすべてスライドで行い、評価する教員を2人にした。代表者を選出して県の探究フォーラムで発表をし、好評を得た。また真岡市市民会館において発表会を開催し、ステージ・ポスター発表を公開した。生徒が自分の意見をまとめる力、それを発信する力を強化することができた。

- 生徒は文武両道を実践し、学習、部活動に日々積極的に取り組んでいる。部活動においては、陸上競技部、ソフトテニス部、弓道部、空手道部、吹奏楽部、文芸部、演劇部（22年ぶり）が関東大会に出場し、囲碁将棋部が全国大会出場、吹奏楽部は2年連続で東日本大会に出場、演劇部も全国大会出場という快挙を果たした。今年度は文化部の活躍が光った。他にも、IH予選大会ではサッカー部、剣道部が3位。サッカー部は2月の新人大会では県準優勝。非常に活発であった。

- 「教育相談アンケート」を毎月1回実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に向け組織的に対応している。学期に1度自己有用感を感じているかを問う設問を設け、その結果を指導に生かす取組も行っている。さらに、スクールカウンセラーの配置により教育相談体制の充実を図っている。

(2) 学校運営の取り組み状況

- 「至誠」を基本精神に掲げ、教職員が一丸となって、生徒の指導、支援に当たっている。本年度は、スクール・ミッション、スクール・ポリシーが完成し、「学校案内」やホームページに掲載し本校の特色として公表した。また、スクール・ミッション、ポリシーを理解することを特色選抜の条件と掲げたこともあり、中学校訪問や学校説明会では丁寧に説明した。

- P.T.A、同窓会をはじめ、地域の関係諸機関との連携により伝統ある地域の進学校として将来リーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいる。

- 全ての学校行事が予定通り実施できた。「学校祭」は1591名もの来場者で大盛況であった。井頭公園を会場としたマラソン大会、芳賀郡内を巡る駅伝大会は、保護者に給水のサポートや交通整理などの支援を受けて無事に行うことが出来た。合唱コンクール、校内体育大会、駅伝大会はクラスの結束を高めることができており、アンケートの「本校は学校行事が充実している」の回答の評価も生徒が5ポイント昨年度より高まった。また、保護者の給水サポートなどのために、生徒の「PTAからの適切な支援を受けている」の項目が9ポイント高まった。

(3) 校務分掌各部・教科・学年の取り組み状況

- 生徒の主体的な行動力を高めるため、各校務分掌が互いに連携を取りながら生徒の指導・支援を進めた。特に、進路指導部では、各学年の進路係と連携して、「3年間の指導の流れ」に沿った指導を行った。R6春の国公立大学合格者が104名であり、現役生は99名の合格数という快挙であった。その成果は本校の進路指導力の高さを示すとともに、在校生の大きな励みとなっている。生徒指導部は、生徒のあり方生き方を自ら考える姿勢を醸成するような指導を心掛けた。また特別な支援を要する生徒に対し、特別支援教育委員会を開催し、学習指導部と連携して、学習指導の面で合理的な配慮に取り組み、効果的な支援を図っている。

- 年5回の担任との面談が実施され、アンケートの「面談などを通して生徒理解に努めている」の回答は肯定的な意見が生徒96%、保護者90%と全ての回答の中で最も高く評価されている。

(4) 授業改善及び学力向上に向けた取り組み状況や達成状況

- 生徒の視点に立った授業改善を進めるとともに、主体的に授業に取り組もうとする態度を育むため、「授業に関するアンケート」を実施している。各教科の分析結果を職員会議で共有している。
- 電子黒板やタブレットの効果的活用の研究と授業実践・改善によって、生徒の主体的・対話的で

深い学びを促進する授業が展開されている。タブレットは、「総合的な探究の時間」の探究学習で資料閲覧や、グループ活動、発表スライド作成に使用している。また、出停の生徒向けにリモート授業も実施している。しかし、ややタブレットは性能上の難点があり、高性能のPCが導入されるともっと授業でICT活用が推進できると思われる。

- ・各教科の研究授業を互いに参観し、指導力向上に努めている。
- ・実用英語検定試験、数学オリンピックを本校会場で実施し、生徒に積極的に挑戦するよう働きかけた。英検の受検者数、合格者数が伸びており成果がでている。

(5) 開かれた学校づくりの取り組みに対する状況

- ・ホームページや学校だより（「白布ヶ丘だより」月1回発行）、一斉メール等を通じて、学校の情報が正しく保護者や地域に伝わるよう広報活動に努めている。学校だよりは近隣地域の回覧板に添えて配布していただいている。また、今年度は出版委員が「学校通信」を3回発行し、中学校に配布し、本校の高校生活の楽しい様子を中学生に向けて発信した。
- ・例年落ち葉清掃が生徒会主催で行われていたが、昨年に引き続き今年も1、2学年の奉仕活動として学年を上げて行われた。1学年は11/29、2学年は11/22に学校周辺の落ち葉清掃を実施し、地域の方と連携して地域のご自宅の落ち葉も回収した。他にも、野球部の地域清掃、真岡鐵道利用者の駅舎清掃などが例年通り行われた。なお、清掃に関わる用具は真岡市の社会福祉協議会に申請した補助金より購入した。また真岡児童館における教育ボランティアも実施され地域連携が図られた。

(6) 生徒・保護者アンケート結果を踏まえての評価

- ・今年度もICT支援員のサポートを受けFormsのアンケート機能で実施した。保護者97%、生徒99.8%という高い回答率を得ることができた。
- ・昨年比で好評価が5ポイント以上減少したのは、生徒の1、職員の11.12であり、保護者はなかった。また、肯定的な意見が8割から9割以上を占めており、高い評価を維持している。特に、生徒の好評価が5ポイント上昇した項目が六つと多かった。生徒の本校での高校生活の充実度が高いと言えよう。「わからない」という回答が多い項目11については、広報活動等を通して、より分かりやすい説明を続けていく。

(7) 教職員の意識改革及び意欲向上に向けた取り組み状況

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と教員の授業力向上を図っている。今年度も校内教員研修（8/26）に、島根大学の中村進教授を講師に招いて探究学習の推進についての研修会を行った。本校職員だけでなく他校の教員も参加し学びのSTEAM化で生まれる力、問いから始める授業について学んだ。先進校視察も行い、より質の高い授業作りの研鑽をし、生徒に「確かな学力」、「思考力・判断力・表現力」、「問題を解決する実践力」を身に付けさせるため、教科指導をベースにしつつ「総合的な探究の時間」で探究学習を実践している。
- ・進路指導部が開催する進学指導研究会と出願大学検討会において、直接生徒を指導する担任団と進路指導部の各教員が大学学部学科についての情報や進路選択についての考え方等を共有しており、学校全体で生徒の進路指導を行っていく体制づくりができています。今年度の企画の1例として、宇都宮大学先生方を招いて「大学の模擬授業」11講座を設けた。1、2年生は2コマ受講し、学問への興味関心を高めることができた。昨年立ち上げた「探究・STEAM教育推進委員会」はほぼ毎週実施し、「総合的な探究の時間」の計画立案し、学年に下ろした。
- ・今年度より担任だけの学年打合せだけではなく、副担も交えた「学年会」を設け、「総合的な探究の時間」の活動内容の周知と、問題を抱える生徒の情報共有を図ることができた。

2 学校関係者評価について

(1) 評価組織（評価者）

学校評議員（保護者を含む）を学校評価委員に委嘱して評価を行った。

(2) 評価結果（評価者からのご意見）

- ・学校評価アンケートの評価が全体的に高いので、いい教育活動がなされていると言える。
- ・保護者の意見でタブレットの性能が低くて不満だというものがあったが、このことは県に言うべきである。県が対応すべきだ。
- ・学校評価アンケートについて、スクール・ポリシーと評価をつなげるとよい。
- ・ホームページで行事の活動内容をアップするとよい。
- ・先生方の指導力の差を指摘するものなど、一部指導にマイナス評価や気になる意見がある、注意してほしい。
- ・「テーマ研究発表会」を見学した、印象深い発表があった。文武両道は達成されている。
- ・アンケートの自由記述に、人権にかかわるものがある。学校祭の「ミスコン」が問題視されているが、この催しをするかどうかは、親ではなく生徒が考えるべき。
- ・先生が一方的に言われるのではなく、先生からも意見が言えるように、意見交換ができるとよい。
- ・授業見学の日数、回数が多くあるとよい。